

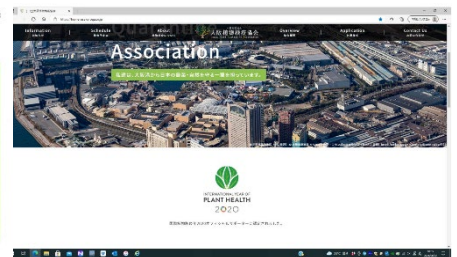
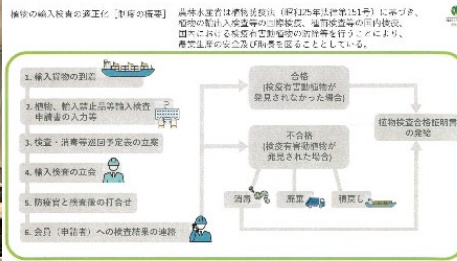
1. 取組実績

(1) 令和3年度職員採用会社説明会

令和2年10月10日に行われた新規職員採用説明会にて「日本の植物検疫」DVDの閲覧後、当協会職員から「植物検疫の流れ」の解説が行われた。

(2) ホームページに「国際植物防疫年2020」を掲載

昨年8月開設したホームページに「国際植物防疫年2020」のバナーを設け農林水産省ホームページにアクセスできるようにした。



2. 取組による効果

(1) 令和3年度職員採用会社説明会

新規職員採用説明会に24名が参加し、一旦病害虫が国外から持ち込まれ国内に蔓延されると日本の農業・林業に大打撃を与え、その病害虫駆除に膨大な時間と費用が掛かるのでいかに水際対策が重要かを、植物検疫自体よく認識していない個人へも丁寧に説明が行われた。植物防疫を理解してもらう良い機会になった。

(2) ホームページに「国際植物防疫年2020」を掲載

アクセスカウンターを使用していないのでどこまでPR出来ているかは不明だが、協会ホームページのトップ画面にロゴマークを掲載しているので、通関業者や個人輸入者からの問い合わせ時にまずはトップページにて植物防疫の必要性について説明を行った後に各種様式大阪協会仕様へ移動するようにし、PRの機会につなげている。

3. 今後の予定・展望

(1) ホームページにて情報発信

引き続きホームページにて「国際植物防疫年2020」のPRはもとより植物検疫関係情報を掲載していく。

(2) 今後は関係会社や個人輸入者へのPRは当然のことながら、もっと詳しく、分かりやすい説明できるように協会職員全員がエキスパートであるべきと考える。それには各協会職員が基本に戻りもっと意識向上し理解・習得に努める。

1. 取組実績

(1) ホームページ・Facebookでの情報発信

当社ホームページ及びFacebookにおいて、5月1日に国際植物防疫年2020オフィシャルサポーター認定についてお知らせ。農林水産省ホームページをリンク。



2. 取組による効果

(1) ホームページ・Facebookでの情報発信

当社ホームページによる情報発信により、植物防疫を初めて知ったという声も届いた

(令和2年5月1日から令和3年6月30日までのアクセス数 18,605)
(国内89.5%・海外10.5%)

(2) 2020年度経済産業省グローバルニッチトップ企業 公表資料での紹介

(3) 令和2年10月14日鹿児島市で開催された第79回ベンチャープラザ鹿児島「二水会」での発表時に紹介(参加者79名)

<連絡先> (任意)

三州産業株式会社
営業部 海外プロジェクト (古垣 洋次)
TEL : 099-269-1821 info@sanshu.co.jp

株式会社武蔵野種苗園

1. 取組実績

①ホームページによる情報発信

2020年9月～2021年6月、弊社のホームページにて国際植物防疫年2020のロゴ及びWebサイトのリンクを紹介した。

②季刊誌による周知

2020年11月、2021年5月と年2回発行している季刊誌「武蔵野ニュース」において、裏表紙下方に国際植物防疫年のロゴマークを掲載した。

③イベントによる周知

2020年11月に開催した農場見学会において来場者である取引先やJ A、生産者に対して配布するパンフレットに国際植物防疫年のロゴマークを掲載した。

④社内会議による周知

販売在庫生産検討会議の資料に国際植物防疫年のロゴマークとその取り組みを掲載した。

⑤公式記念発行物の使用

11月に発送する残高確認書の返答用封筒に国際植物防疫年2020年の記念切手を使用した。

2. 取組による効果

①ホームページによる情報発信

当社ホームページ種苗事業部TOPページにロゴマークを掲載し、国際植物防疫年2020の趣旨、植物防疫の認知度を高めた。Webサイトの2020年9月～2021年6月 アクセス数 593,791名)

②季刊誌45,000部×春・秋2回を全国の取引先となる種苗店や生産者に対して、植物防疫年2020の周知と取り組みに関心を持ってもらうことが出来た。

③農場見学会は3日間で286名が来場され、全国の種苗店、J A、生産者、市場関係者、各都道府県関係者等に対して、資料を配布し国際植物防疫年2020への認知度を高めた。

④2020年10月に行われた販売在庫生産検討会議にて各部署の所属長を中心に22名の出席者に国際植物防疫年2020の趣旨及び植物防疫に対する意識の植え付けを行った。

3. 今後の予定・展望

植物防疫の重要性やその取り組みについて取引先である種苗店や生産者への周知がまだまだ足りていないので、もっと周知を行う必要があると感じた。



INTERNATIONAL YEAR OF
PLANT HEALTH
2020

武蔵野ニュース№49(2020年11月発行)
武蔵野ニュース№50(2021年 5月発行)

2020年11月農場見学会
配布資料 裏表紙



2020年11月農場見学会 会場



1. 取組実績

1) 学科および大学院プログラム授業での情報発信
本学において開講している関連科目（「植物保護学」、「生物制御科学I, II, III, IV」等）における授業を通して、植物防疫に関する活動情報を配信した。

2) 国内外の関連会議の主催

2-1) 2021.02.09にスペインコルトバ大学のProf. Antonio Di Pietro (Department of Genetics, University of Córdoba, Spain) を招いて、Title：“Host adaptation and evolution in the fungal pathogen *Fusarium oxysporum*” と題する国際オンラインセミナーを開催した。

2-2) 20210308～10日本農薬学会ハイブリッド大会を主宰し当部門を中心にシンポジウムを実施した。

20210618～19日本土壌微生物学会オンライン大会の開催を補助し、発表を行った。

2-3)

20210327 農水省植物防疫の在り方を検討する有識者会議に本部門の有江が座長として参加することが報道された

2. 取組による効果

1) これらの授業を通して植物防疫に関する知識を広め、次世代を担う人材の育成を行うことができた。

2-1) 研究交流を通して学生の教育に活かすことができた。理化学研究所、鳥取大学、東京理科大学、JIRCUSなどからの参加者も得、国際的な交流となった。

3. 今後の予定・展望

将来的に、本学で教育を受けた学生がこの分野に進み、植物防疫の発展に貢献することが見込まれる。

1. 取組実績

日本植物病理学会では、農林水産省、国際植物保護会議、世界食糧農業機関（FAO）等のご協力の下、**アジア植物病理学会（ACPP2020）**を2020年9月につくば市において開催すべく準備を進めていたところ、コロナ禍のため中止を余儀なくされた。現在もホームページを維持し

（<https://www.ppsj.org/acpp2020/>）、植物防疫の重要性を世界に発信する場としている。同ホームページでは IYPH2020 のロゴを使用させていただいている（図1）。

また、2021年3月、三重大大学をベースに、**令和3年度日本植物病理学会大会**

（<https://www.knt-c.co.jp/ec/2021/ppsaj/>）をオンラインで開催、植物病害、植物保護、植物防疫等に関する、授賞、特別講演、一般講演を、日本農薬学会会員、関連学会会員、一般、学生に提供した。大会ホームページ等で国際植物防疫年2020のロゴを使用させていただいた。また、オンデマンド配信した会長挨拶の中で IYPH2020 の活動などを紹介させていただき、より社会への周知を図った（図2）。

2. 取組による効果

令和3年度日本植物病理学会大会はオンライン開催になったにも関わらず、多数の参加を得、植物防疫に関する研究交流、情報発信につながった。

3. 今後の予定・展望

日本植物病理学会では引き続き、ホームページ、大会等の集会、論文等を掲載した学会誌（**日本植物病理学会報、Journal of General Plant Pathology**）を通じ、植物防疫に関わる研究、知財などの実装、農業者・普及員などとの連携、社会啓蒙等の活動を推進する。



図1 アジア植物病理学会ホームページ



図2 令和3年度大会会長挨拶において IYPH2020 の活動などをご紹介